

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は入居されている方の過ごし方を、尊重するような理念をつくりあげている。		入居されている方が、ゆったり・楽しく・ありのままに過ごせるような介助、サービスを提供する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の朝礼にて理念の確認を行っている。	○	職員1人1人への意識づけ理念を頭に入れての介助、サービスをもっと意識する。
3	—	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域行事の参加実施。広報等を利用し地域の人達へグループホーム内での日常生活の紹介を実施。家族への配布	○	地域の人達への交流を積極的に実施していかなければならない。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの保育園の園児が、散歩の途中でよって歌を歌ってくれたり、入居者との会話される。民生委員の方が訪問される。		隣近所の人が気軽に立ち寄れるようこちらから声かけなどを行っていく。
5	3	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会等の参加している。地域の行事にも参加。		今後は自治会、町、地域活動に参加できるようにする。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	デイサービスと協力しあい様々な催し物等を実施し地域の高齢者等とのふれあいに取り組んでいる。		今後は、地域の研修などに参加したりこちらからちょっとした介護に役立つ研修など取り組んでいきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を実施して、今何が足りないか不足しているのかを職員全員に伝えている。		職員全員に伝えているが、評価を受け、改善計画を立て実施するまでに期間がかかり過ぎている。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開いて議事録を作り報告している。		会議では、議事録を報告している。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明な点や困った事等連絡指導を受けている。	○	積極的な働きかけを実施したい。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度が必要な人には活用できるように支援している。	○	職員のほとんどが地域権利擁護事業や成年後見人制度についてあまり知識がないので今後学んでいきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼やスタッフ会議等で全員に話している。		1人でも多くの職員が研修等参加出来るようにしたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	きちんと説明し、理解、納得を図っている。		契約時の説明十分に行っている。不明な点などいつでも受けられるよう配慮している。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者にサービスを提供する前に意思を聞 くようにしている。		入居者に何がしたいか聞いて出来る限り 行っていくようにする。
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	家族の方が面会に来られた際には現在の状 態などを説明したりしている。金銭等の管 理は日頃より連絡している。		家族の方がなかなか面会に来られない所 には、文書などで報告していこうと思う。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談箱を玄関に設置している。		アンケート方式で家族へ連絡して意見を聞 きたい。
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	スタッフ会議を毎月1回開催しその場で意 見や提案を聞いている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	24時間体制にしている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等は利用者に支障がないような配慮を している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年金等制限していない。全員への配慮を実施している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習会に参加している。又パンフレット等を参考にホーム内の研修を実施している。		研修等参加の機会を作っていかなければと思っている。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会がある毎に働きかけを実施している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム協会参加し意見交換を実施。近隣の同業者の交流を計っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	アロマセラピー等リラックス法やその時々のカウンセリング、食事会などのリフレッシュの機会を設けている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日頃より個々努力、実績、状況把握に努め健康管理や働く自信がもてるような配慮をしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前必ず本人と面接する事から実施している。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	困っていることや、悩んでいる事、家族の茅が行っているケア等を聞いている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで可能な事不可能な事をまず説明し、他の方法も伝えている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の方から本人の趣味などを教えてもらいそれを通じてスタッフ、他入居者と親しくなれるようにしている。まずはスタッフとの関係えお大事にしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と一緒に作業などする時レクリエーションなどで共に楽しく過ごす時間あり。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家庭での生活はどんな風だったなど聞き、今の状況などもこちらから提供している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホーム内での行事、夏祭りや運動会などには、家族の方に文書で知らせ参加出来る方には、参加してもらっている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や気軽に近所の人達が訪問してください、デイサービスを通して知人との付き合いも続けていらっしゃる。		
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え遅えるように努めている	入居者同士で仲良く会話されている。入居者同士で言い争いになっている時は職員が間に入って話しをする。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等の場合その後の御見舞い等実施している。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のやりたいこと意見を聞いている。食事面では器や道具を工夫したり出来る限り本人の意欲や出来る力を大切にしている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活状況の中で把握や今までの生活歴などで把握している。若い頃の話、スタッフとの会話で自然に話して頂くように把握に努めている。経過等は事前調査を活用し把握している。	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事量、排泄パターンなどはチェックシート利用し把握に努めている。入居者1人1人の過ごし方でいつもと違うとか、気付きをケース記録に残している。		足りない情報に関しては、家族の方から提供してもらいたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の方からの意見をケアプランに取り入れている。家族の面会が少なく意見や、意向がケアプランに反映されにくい事がある。	○	面会が少ない家族の意見、意向をどうやってケアプランに反映していくか考え今後取り組んでいきたい。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間毎に見直しを行っている。		臨機応変な見直しなど変化が見られない時の対応に取り組みたい。
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の内容がケア実践になりがちであったが研修を通して徐々にではあるが、気づきやその場の様子が分かるような記録の記入にしている。変化を記入するようにしている。	○	徐々にではあるが記録に気づきや変化を記入しているが、もう少しその人の様子が分かる記録になるように取り組みたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制については入退院等配慮している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	城島文化ホール、図書館の活用、幼稚園児の訪問によるふれあい。	○	地域の方々、民生委員、ボランティアとの体制を上手にとっていきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	デイサービスの活用		入居差の生活をより良くする為に他のサービスを上手く活用していきたい。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターより運営推進会議に出席してもらっているのでアドバイスを受けている。		必要性に応じて地域包括支援センターとの連携を上手く取りながら、本人本位の支援につなげていきたい。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医師、病院を受診している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科・相談・受診等を実施している。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホーム看護師、上野医院の看護師に相談しアドバイスなどもらいながら、支援している。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合はホームでの情報を病院に伝えている。入院中は面会、家族との連絡実施退院後の受け入れ等配慮している。		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病院の医師、家族との話し合いをして、家族の意思を聞いている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上野医院との連携、スタッフ会議で検討して、出来る事、できない事を見極め病院との連携に支援している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	次の居所への介護添書職員と面接し今までのホームでの生活様子や家族と本人の情報を詳しく説明している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全体で個人のプライバシー確保に努めている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	暮らしの中で入居者の方が選んでみる様なことを実施している。レクリエーションなど。入浴時の衣服を選んでもらったりしている。		もっと機会を増やしていきたい。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日に何をしたいか入居者に意見を聞いたりしておこなう。	○	意見が出なかつたり、出来ない事など言われた時の対応をもっとしっかりしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者が美容室に行きたいと言われた時などには連れて行っている。家族連絡をとり本人の意向を十分に伝え実施。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な作業などは入居者の方に声をかけ一緒に行っている。湯呑みや比較的軽い物などは入居者の方に持ってきてもらっている。		片付けなどはお願いしても、今までしてきたけん、もう今さらしたくないと言われる。
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	たばこなど吸われる方には吸えるような環境を用意している。お酒の必要な方に対し主治医、家族と話し合い可能な範囲での対応を実施している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者が行きたい時に誘導している。パットなど使用している場合は、随時見直しを行っている。本人の尿意のサイン・パターンを把握し誘導。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂の声かけを行い、本人に聞いて実施している。		
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者が休息や睡眠したい時は、居室にベッドがあるので休んでもらっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の性格を把握し手伝いが好きな人には洗濯物を一緒にたたんでもらったり、食事後のテーブルを拭いてもらったりしている。		入居者の生活歴や楽しみごとをもっと見つけおこなっていききたい。
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る人には、本人所持されている。		
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日にはドライブや散歩に外出している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見等毎年行き先を十分検討し喜んでもらえる場所を考慮している。ドライブ等季節感を味わってもらえる所へおこなっている。		行きたい場所などを聞き出来る限り連れて行くようにしたい。
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話をしたいと希望があれば自由に行っている。家族からの電話は24時間対応している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族の方が好きな時には来館してもらえるようにしている。来館され時にはお茶など提供している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の9:00~17:00まで玄関の鍵は開放している。		チャイムが鳴るようにしているが入居者が玄関方向に行っていると声をかけるように職員全員が気にかけている。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中職員、入居者ともにフロアーにて一緒に過ごしている。夜間本人のプライバシーには特に配慮している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や洗剤などは入居者の目につかない所に片付けている。個人の対応実施		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを活用し再発防止について検討している。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員に応急手当の講習に参加してもらったりしている。応急手当のマニュアルをフロアーに置いていつでも見れるようにしている。	○	定期的訓練と研修の実施をしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年に2回5月・10月に実施している。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者1人1人のリスク今の状態を面会に来られた時に説明し対応策を話している。 電話等での連絡実施		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の様子がいつもと違うかなと思った場合は、バイタルチェックなど行い、状態を病院に報告している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者1人1人のカルテに薬剤処方箋を挟んで分かるようにしている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量、食事摂取量、服薬や運動等常に気配りをしている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に入居者1人1人に声かけをおこない、介助が必要な人には介助見守り、声かけでいい人には、見守りと言う形で実施している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は食事、おやつ、入浴後はもちろん補給してもらっている。栄養士への相談、アドバイスを受けている。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルや対応の取り決め実行している。		
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理に入る前の取り決めがあり、実行している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> <b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関回りにプランタに花を植え明るい雰囲気になっている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の時に使う茶碗やお箸、湯呑みなどは、自宅で使っていたものを使っている。入居者の居室にも自宅で使っていたなじみの物を使用してもらっている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人で過ごしたい時には、居室に戻られたりしている。入居者同士、気が合う人、合わない人いらっしゃるので、テーブルに座る位置などに気をつけている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた家具や趣味の道具思い出の写真などを飾ったり、本人が居心地良く過ごせるようにしている。		
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計・湿度計を見てから把握している。気になる匂いがする時には換気に気をつけている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ内に手すりの位置、お風呂場・浴室に手すりを設置、転倒につながるような、物品などの整理する。ベッド位置の工夫実施		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレなどは入居者に分かりやすく表示している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	フローアより中庭に出れるようにしており、天気が良い日はウッドデッキにて日向ぼっこなど実施している。中庭に花など植えたりしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目</b>						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2／3くらいの		
				③利用者の1／3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

理念がゆったり・楽しく・ありのままに暮らしていただくをモットーに職員全員が入居者1人1人に合わせた支援を出来るように心がけてます。又家庭的で暖かい雰囲気でも過ごしてもらえるようにしている。他の入居施設で対応困難な方でも受け入れている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしさを尊重したケアを目標とする理念がつけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼で理念の確認を行っている。	○	理念に沿ったケアプランになっているか、又はケアの実施が出来ているかよりいっそう取り組みたい。
3	—	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域行事の参加実施。広報等を利用し地域の人達へグループホームの日常生活等の紹介実施。家族への配布実施。	○	
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	通勤途中にすれ違う時、積極的に挨拶する。地元の農園との協力で畑に行ったり、収穫した野菜を頂いたりしている。時に地元の方から花を頂いたり、来館時には、入居者と共にお茶を飲んでくつろいでもらえるように配慮している。		
5	3	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の外出支援を通じ、地元の敬老会に参加したことはあるが、まだ交流の機会は少ない。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	デイサービスと協力しあい様々な催し物等を実施し、地域の高齢者等のふれあいに取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の結果は、スタッフ会議で情報を共有し、改善に取り組んでいる。	○	改善できるところを明確にし早急に具体策の実施ができるようにしたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で評価結果を報告し、色々なアドバイスを頂き改善に役立てている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明な点や困った事等ある際連絡し指導を受けている。	○	積極的な働きかけを実施したい。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に応じ活用している。研修に参加している。	○	制度の理解が難しいので今後勉強していきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受け、スタッフ会議で報告している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を実施している。		不明な点等いつでも受け入れられるよう配慮、早期返答等実施。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者にサービス提供前に意思の確認等聞 くようにしている。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	面会時には、スタッフから声をかけ生活の 様子、身体面での変化等報告している。薬 の変更や副作用等、受診の結果等も記録物 を開示しながら説明している。職員の異動 は掲示板にスタッフの写真を貼って知らせ ている。	○	スタッフの異動は掲示板の写真等で知らせ ているので、担当の変更も含め直接ご家族 に報告するようにしたい。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関脇に苦情箱の設置をしている。又、入 居契約書に苦情相談箱の担当者名を明記し ている。	○	なかなか苦情等があがってこない。
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	スタッフ会議を毎月1回実施しその場で意 見や提案を聞いている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	24時間柔軟な対応が出来る態勢を整えて いる。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等は利用者にも説明し支障がないよう 配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年金等の制限はしていない。全員への配慮は細めに実施している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習会に参加。又パンフレット等を参考にホームでの研修を実施している。	○	
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修を受けている。学ぶ機会は多い。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム協会に参加し意見の交換を実施している。近隣の同業者との交流を計っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	アロマセラピー等リラックス法やその時々のカウンセリング、食事会などのリフレッシュの機会を設けて実施している。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日頃より個々の努力、実績状況把握に努め健康管理や働く自信がもてるような配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前必ず本人との面接する事から実施している。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	別室で時間をかけ、困っていることや悩んでいること現在ご家族が行っているケア等傾聴している。家族介護によるストレスとう気持ちを表出しやすいように配慮している。		
27	—	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで可能な事不可能な事をまず説明し、他の方法もアドバイスしている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症でも、サービス開始についてご家族から本人へ説明して頂いている。ご家族から本人の趣味など教えてもらいそれを通じてスタッフ、他入居者と親しくなれるようにしている。急に大勢の人と接するのではなくスタッフとの関係を重視している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご家族又は本人との関わりの中で、その人の家での生活、若い頃の話など伺っている。辛かった事、楽しかった事印象に残っている事などを話してもらえような、会話のきっかけ作りをしている。	○	センター方式等用いてもっと深くみていきたい。研修の一環として一度実施している。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常生活のことでは辻褃が合わない方も、若い頃の話しやスタッフの悩みの相談になれると生き生きと素晴らしい言葉をだされる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者がご家族に会いたいと話されたり、精神的に不安定になられたりする時は、ご家族の面会をケアの1つとしてケアプランに取り入れている。食欲が低下した方には、好きな物を差し入れて頂いたり時には食事介助して頂いたりしている。		全く家族の協力を得られなかった利用者でも第三者を介して必要最低限度の協力が得られる対応を取っている。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や気軽に近所の人達が訪問して下さるデイサービスを通じて知人との付き合いも続いていられる。	○	市外の入居者もおられるので、こちらから馴染みの場所等に出かけて行く等、取り組んでいった。
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え遅えるように努めている	入居者同士の仲の良し悪しは把握している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等の場合はその後の様子理解、御見舞い等実施している。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	例えば糖尿病でも、食べる楽しみを持ちたいと希望される方には、主治医と相談しながら嗜好品を取り入れている。又食事面では器や道具を工夫したり、手掴みになっても見守るなど本人のできる力や意欲を大切にしている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族面会時にアルバムを持って来て頂いたり若い頃の話し、得意料理など、スタッフとの会話の中で自然に話して頂き把握に努めている。生活環境、サービス利用の経過等は、事前調査表を活用し把握に努めている。	○	よりその人に合ったサービス提供の為自宅での食事、入浴等の1日のサイクルを把握していきたい。把握出来ている部分と出来ていない部分がある。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	チェックシートを利用し食事量、排泄パターンの把握に努めている。気分的に落ち込みやすい時間、身体の不調を訴えやすい時間帯を把握し、各スタッフの気付きをケース記録に残している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活上のニーズには、本人の言葉や本人からみたニーズをできるだけあげている。ご家族の意見をケアプランに取り入れている。面会が少なく、意向がケアプランに反映されにくい事がある。	○	面会が少ないご家族の意向をどうやってケアプランに反映していくかが、課題
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	早急なプラン変更が必要な時は、その日の日勤者と話し合いケース記録に残している。家族の意向を伺う時間がない時がある。又、変更の度に計画書に記入していない。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記入内容がケア実践に偏りがちだったが研修を通し、徐々に気づきや、その場の様子が分かる記録になってきている。本人の出来る事、出来なくなっていることなど変化を記入している。	○	排泄等はチェックシートに記入しその人の様子が分かる記録になるようさらに取り組みたい。ケアプランに基づいた記録になるよう取り組んでいきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体調不良時などは、母体である上野医院からの往診、処置を受けることができる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	身寄りのない方は、地域の民生委員に協力して頂いたり、情報交換をしたりして、その方が暮らしてきた地元での縁を大切にしている。家の維持管理などにも協力して頂いている。	○	隣組等とは、今後消防での協力体制を強化していきたい。



項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	デイに通っている夫と一緒に過ごす時間をもつ為、ホーム入所中でも、デイに遊びに行ったりしている。	○	地元の介護保険外のサービス利用者の方と、入居者の方が、触れ合える時間を作っていきたい。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護事業や、後見人制度を必要に応じて利用している。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と相談し、かかりつけ医を決めている。入居前のかかりつけ医を継続受診希望され、ご家族が通院介助できない場合は、スタッフが介助を行っている。緊急入院時は、家族が来られるまで付き添っている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に応じご家族と相談のうえ専門医受診を行っている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設長及びスタッフ1名が看護職で入居者の状態把握に努めている。母体である上野医院より定期的な看護師の来館があり、日頃の健康状態や異常の報告を行っている。上野医院とは24時間連絡がとれるようになっている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関を確保し、入院時はサマリーを添付している。又、スタッフが直接本人の状態や生活上の注意点を伝えている。入院中はできるだけ職員が面会に行き話しかけるようにしている。ご家族と相談し入院中の洗濯物を取りに行ったり、衣類を補充したりしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族と相談し看とりまで行ったことはあるが、ご家族、医療側施設と三者で話し合う機会が少ない。	○	ご家族が受診の介助ができない時は、スタッフを通して、医師の判断を伝えることが、多くなりがち三者での話し合いの場が多くもてるよう取り組んでいきたい。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の利用者のケアに対し、不安なこと困難な事、対応可能なことなど職員同士率直に話し合いスタッフ会議や運営会議で解決に努めている。	○	ホーム内での出来る事、出来ない事やホームで実施出来る医療の範囲についてもっと話し合っていきたい。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居時には介護サマリーを添付しているが、転居先のケア職員と直接情報交換する時間は限られている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	重ね着や現実のとり違えなどがあっても他者の前では指摘しない等本人を傷つけないように配慮している。利用者それぞれの保護責任者やキーパーソンの把握に努めその方に重要な情報は報告するようにしている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入浴時に好きな衣服を選択して頂いている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上手く食事ができず、時間がかかる方でも本人の自分でやりたいという意欲を大切にし食器等を工夫する事で自分で食べて頂けるよう支援している。自室でテレビを見たりして過ごせるように配慮している。	○	もっと利用者のペースにそってケアができる部分がないか検討したい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望に応じ、入浴後には化粧水をつける、鏡を見る機会を作るなどしている。外出時にメイクをしている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	湯呑みの片付けなど、本人の力と意欲に合わせて手伝って頂いている。食事作りに関わる、スタッフと一緒に食事する事はできていない。	○	
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	病気であっても主治医等と相談し嗜好品を楽しめるようにしている。他の利用者に迷惑がかからないよう場所の設置や換気扇の設置を行っている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の尿・便意の有無・言葉で表せなくても、サインとなるものの把握に努め対応している。オムツをしていても排泄パターンの把握に努め誘導を行っている。		自然な声かけやさりげない誘導に取り組んでいきたい。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の好む時間帯やタイミングに出来る限り合わせている。時間がかかっても本人の意欲残された力を大切にし着脱・洗身などできる範囲でして頂いている。		
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居前に1日の生活リズムを把握するよう努めているが、出来ないこともある。顔色や様子を観察し午睡を声かけている。	○	入居前の1日の生活リズムの把握を十分にやっていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	簡単な掃除の手伝いをしてもらい不十分でも感謝の言葉をかけ褒めるなど、本人が人の役にたてたと思えるよう支援している。ご家族に得意なことを聞き、楽しみごととみとして提供している。	○	レクリエーションなどは大勢を対象としがちなので、できるだけ個別に支援出来るようにしていきたい。もっと生活の中で個々が生き甲斐や喜びを実感出来る場面を作っていきたい。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に合わせて、お金を所持することができる。	○	1人1人が好きな物を地元の店に買いに行けるよう、その人の力に応じて取り組んでいきたい。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子の不足や、人員体制などで外出の機会が少ない。		今後取り組んでいきたい。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	車椅子生活の方でも、ご家族や知人の協力でお墓参りに行ったりしているが、頻繁にはしていない。	○	その人の思い出の場所や希望する所へ行けるよう取り組んでいきたい。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、ご家族とも相談のうえ対応している。ご家族知人からの手紙や電話は直接本人にとりついでいる。ご家族宛の手紙を書いて頂き郵送している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	9：00～17：00玄関を開放している。24時間訪問可能でスタッフから挨拶をし、入居者と一緒にお茶を飲みくつろいで頂けるようにしている。談話室の使用が可能。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。職員は出来る限り外部の研修や講演に参加している。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	9:00~17:00玄関を開放している。スタッフの意向で居室に鍵をかける事はない。玄関の解錠中はチャイムを利用している。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフはフロアーに常駐し、利用者の所在や把握に努めている。夜は居室のドアを出来るだけ閉めてプライバシーに配慮している。フロアーから死角となる場所を把握している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・洗剤等は、目につかない所に保管している。薬は鍵のかかる所に保管している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々に起こりえるリスクをスタッフ間で話し合い防止に努めている。薬はダブルチェックをし、歩行介助が必要な方の歩き出しが把握出来るよう鈴を利用したりしている。会議でヒヤリハットを活用している。又、トロミ粉を利用している。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法の講習に参加している。	○	定期的な訓練や勉強会をしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年に2回実施している。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクやADLの低下認知能力の変動など、面会時にご家族に伝えている。対応策についても報告している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	病歴・アレルギー等はカルテに記載し把握しやすくしている。異常時はスタッフ間で情報の共有・記録・病院への報告を行っている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をカルテにつけ把握出来るようにしている。睡眠や表情、ADL等変化があれば記入し医師に状況を伝えている。誤薬防止に名前の記入を行っている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を取りたがらない方には、しょうが湯など本人が好む物を取り入れている。排便状態について病院へ相談し適切な薬の使用が出来るようにしている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後ケアをしている。個々に合わせて、介助・見守り・誘導を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作っており、栄養のバランスに配慮している。定期的な水分提供をしている。お茶が嫌いな方にはコーヒーやしょうが湯で水分補給に努めている。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアルを作り、対応の取り決めを把握している。研修への参加、スタッフ会議での研修報告を行っている。		
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の熱湯消毒・食器乾燥機を使用している。調理師による食材管理、必要に応じた買い出しにより衛生管理努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花を植え明るい雰囲気になっている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器・家具等は馴染みの物を自宅から持って来て頂いている。季節の花を飾り、トイレ、浴室等も出来るだけ家庭に近いものになっている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人、合わない人を把握しテーブルの位置に配慮している。テーブル以外に窓際に椅子を置いている。	○	1人になれるスペース、2～3人で話しが できるスペースができないか検討したい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っておられた家具・写真・趣味の道具を持って来て頂いている。		
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温・湿度計を利用している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フローア、浴室、トイレに手すりを設置している。又、入居者の状態や自立度に応じて、新たな手すりを追加したり動線を考えて家具の位置を工夫してりしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	見当識に配慮し、浴室、トイレに目印をつけている。居室間違い防止のため個々に応じ目の高さに表示をしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外庭が1階の為気軽に外気浴することが難しい。できる範囲で花を植え眺めたりしている。	○	畑仕事を長年されてきた方も多いため草花の世話だけでなく身近に、できる範囲で畑仕事ができる環境にならないか検討したい。



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

認知症により生活がしづらい部分があっても、専門スタッフのケア介入により、認知症があっても肢体にハンデがあっても生き活きと、その人らしく生活出来る場をつくっていった。「その人」を大事にケアをしたい。他の入所施設で対応困難な方でも受け入れている。